



平成24年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月13日

上場会社名 株式会社セルシード 上場取引所 大
 コード番号 7776 URL <http://www.cellseed.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 幸雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役最高財務責任者 (氏名) 細野 恭史 (TEL) 03-5286-6231
 管理部門長
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第2四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第2四半期	43	1.6	△566	—	△518	—	△571	—
23年12月期第2四半期	43	88.5	△639	—	△584	—	△593	—

(注) 包括利益 24年12月期第2四半期 △576百万円(—%) 23年12月期第2四半期 △593百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第2四半期	△103.02	—
23年12月期第2四半期	△111.48	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第2四半期	500	207	41.0
23年12月期	743	534	71.5

(参考) 自己資本 24年12月期第2四半期 205百万円 23年12月期 531百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年12月期	—	0.00			
24年12月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	205	138.0	△1,545	—	△1,520	—	△1,525	—	△280.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年12月期2Q	5,739,174株	23年12月期	5,446,240株
② 期末自己株式数	24年12月期2Q	66株	23年12月期	66株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年12月期2Q	5,542,799株	23年12月期2Q	5,324,934株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
① 再生医療支援事業	2
② 細胞シート再生医療事業	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
① 資産、負債及び純資産の状況	3
② キャッシュ・フローの状況	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	13
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、穏やかに持ち直しに向けた動きもみられますが、全体としてはなお横ばいの状況が続いております。

当社グループを取り巻く先端医療・再生医療分野におきましては、内閣官房の医療イノベーション推進室が平成24年度からの「医療イノベーション5か年戦略」を策定し、革新的医薬品・医療機器の創出、世界最先端の医療実現、医療イノベーション推進のための横断的施策について発表されました。また、6月12日から6月14日には第11回日本再生医療学会が開催され、細胞シートを用いた再生医療に関する研究についても数多くの報告が行われました。

以上のような環境の下、当社グループは、引き続き再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業の双方で精力的な活動を推進いたしました。両事業における先行投資を主因として、当第2四半期連結累計期間における売上高は43,965千円（前年同四半期比683千円の増加）、営業損失は566,345千円（前年同四半期比73,379千円の減少）、経常損失は518,308千円（前年同四半期比66,089千円の減少）、四半期純損失は571,044千円（前年同四半期比22,558千円の減少）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

①再生医療支援事業

再生医療支援事業では、最終顧客である大学や研究機関を販売代理店とともに訪問し、認知度向上・販売促進活動に取り組むとともに、温度応答性培養皿の新規商品開発にも取り組みました。

以上のような活動の結果、売上高は43,965千円（前年同四半期比683千円の増加）、営業損失は5,141千円（前年同四半期比14,073千円の減少）となりました。

②細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、欧州における角膜再生上皮シートの事業化準備を中心として5つの細胞シート再生医療医薬品パイプラインの研究開発を推進しております。

欧州における角膜再生上皮シートの事業化準備に関しては、平成23年6月に欧州医薬品庁（EMA）宛に提出した角膜再生上皮シート販売承認申請に関する薬事審査への対応を行いました。また、4月には口腔粘膜細胞からなる移植用「角膜再生上皮シート」に関する特許が韓国において成立いたしました。

以上のような活動の結果、営業損失は375,819千円（前年同四半期比5,283千円の減少）となりました。

（当該事業は現在、事業化準備段階にありますので、売上高計上には至っておりません。）

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べて258,063千円減少し、458,497千円となりました。これは主に、現金及び預金が153,144千円、有価証券が90,808千円及び前払費用が16,462千円それぞれ減少したことなどによります。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べて15,404千円増加し、42,126千円となりました。これは主に、保証金の差入などにより投資その他の資産が15,404千円増加したことによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて242,658千円減少し、500,623千円となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べて84,199千円増加し、276,125千円となりました。これは主に、前受金が108,237千円増加し、その他流動負債の預り金が10,824千円減少したことなどによります。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末と変わらず16,984千円となりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて84,199千円増加し、293,109千円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて326,858千円減少し、207,514千円となりました。これは主に、新株の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ125,434千円増加したものの、四半期純損失571,044千円を計上したことなどによります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前第2四半期連結累計期間に比べて452,952千円減少し、357,183千円となりました。当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動に使用した資金は479,305千円（前年同四半期比140,317千円の収入増）となりました。これは主に、補助金32,347千円を受領及び前受金の増加112,500千円があったものの、未払金の減少46,687千円及び税金等調整前四半期純損失568,939千円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は16,465千円(前年同四半期比411,055千円の収入減)となりました。これは主に、保証金の差入により16,725千円の支出があったことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果獲得した資金は248,162千円(前年同四半期比248,162千円の収入増)となりました。これは株式の発行によるものであります。

(3)連結業績予想に関する定性的情報

平成24年12月期の業績予想につきましては、平成24年2月14日発表の業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、継続的に営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上してきておりますが、前連結会計年度の営業キャッシュ・フローは1,274,380千円のマイナスであり、前連結会計年度末の手元資金（現金及び現金同等物）残高601,136千円は想定される営業キャッシュ・フローのマイナス額に比して著しく少ない金額となっております。当該状況により、前連結会計年度末において、当社グループに継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。当第2四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年6月30日）におきましては米国Emmaus Medical Inc.（以下「エマウス社」という）からの「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」（平成23年4月8日締結）に係る契約一時金150万米ドルの受領や、野村證券株式会社宛に発行していた新株予約権の行使（行使額面総額250,000千円分）を通じた資金調達、経営合理化策の実施による全社的な支出計画の見直しなどを行ったものの、当第2四半期連結会計期間末の手元資金（現金及び現金同等物）は357,183千円となっております。継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が依然存在しております。当社グループは当該状況の解消を図るべく、引き続き下記の施策に取り組んでおります。

① エマウス社との間で平成23年4月8日に締結した「共同研究開発基本契約」にかかる契約一時金850万米ドルの受領

当社グループは、エマウス社との間で「共同研究開発基本契約」、「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」の2種類の契約書を締結しております。平成24年12月期第1四半期連結会計期間に「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」に係る契約一時金150万米ドルを受領いたしました。また、「共同研究開発基本契約」に係る契約一時金850万米ドルについては、当連結会計年度中に受領をすることを想定しております。

② 平成23年10月4日に発行した第4回乃至第8回新株予約権を通じた資金調達

当社グループは、平成23年10月4日に野村證券株式会社宛に第4回乃至第8回新株予約権を発行いたしました。当該の新株予約権につきましては、平成23年10月4日の発行から当第2四半期連結会計期間末までに350,000千円の行使があり、同額の資金を調達した実績があります。未行使の新株予約権につきましても、可及的速やかに行使の促進を行えるよう準備を進めていきたいと考えております。

③ 全社的な支出計画の見直し

当社グループは、必要資金が確保できるまでの間支出を最小限に抑える経費計画を策定の上、実行しております。さらに平成24年5月18日には経営合理化策の実施について決定を行い、役員報酬の減額、全従業員賞与の支給見送り、希望退職の募集を実施いたしました。

④ 上記①・②・③以外の資金調達交渉

当社グループは、資金調達を目的として複数の相手方と守秘義務契約を締結して交渉を進めておりますが、当第2四半期連結会計期間末までに具体化したものはございませんでした。当社グループは、上述の施策の状況を勘案しつつ、引き続き必要資金の確保を目指した活動を推進していきたいと考えております。

当社グループは、上記の各施策を確実に実行することによって継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況を解消又は改善することも可能であると考えておりますが、いずれも現時点で未確定な部分があり、従って継続企業の前提に関する重要な不確実性は存在していると判断しております。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

4 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	510,327	357,183
売掛金	11,474	16,468
有価証券	90,808	—
商品及び製品	10,970	7,725
仕掛品	2,767	2,621
原材料	758	670
前払費用	54,389	37,926
その他	35,063	35,901
流動資産合計	716,561	458,497
固定資産		
投資その他の資産	26,721	42,126
固定資産合計	26,721	42,126
資産合計	743,282	500,623
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,267	1,213
未払金	94,756	96,811
未払法人税等	11,762	9,439
前受金	48,801	157,039
その他	35,337	11,621
流動負債合計	191,925	276,125
固定負債		
長期前受金	16,984	16,984
固定負債合計	16,984	16,984
負債合計	208,910	293,109
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,198,225	3,323,659
資本剰余金	3,178,225	3,303,659
利益剰余金	△5,791,139	△6,362,183
自己株式	△47	△47
株主資本合計	585,263	265,087
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△54,015	△59,830
その他の包括利益累計額合計	△54,015	△59,830
新株予約権	3,124	2,256
純資産合計	534,372	207,514
負債純資産合計	743,282	500,623

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
売上高	43,281	43,965
売上原価	31,092	24,118
売上総利益	12,189	19,846
販売費及び一般管理費		
研究開発費	380,855	340,810
その他	271,059	245,382
販売費及び一般管理費合計	651,914	586,192
営業損失(△)	△639,725	△566,345
営業外収益		
受取利息	575	21
補助金収入	55,515	34,172
為替差益	—	12,831
その他	1,066	2,982
営業外収益合計	57,157	50,007
営業外費用		
為替差損	1,830	—
株式交付費	—	1,837
その他	0	132
営業外費用合計	1,830	1,970
経常損失(△)	△584,398	△518,308
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,980	—
特別退職金	—	50,630
その他	118	—
特別損失合計	7,099	50,630
税金等調整前四半期純損失(△)	△591,497	△568,939
法人税、住民税及び事業税	2,105	2,105
法人税等合計	2,105	2,105
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△593,602	△571,044
四半期純損失(△)	△593,602	△571,044

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△593,602	△571,044
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	17,254	△5,814
その他の包括利益合計	17,254	△5,814
四半期包括利益	△576,348	△576,858
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△576,348	△576,858
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△591,497	△568,939
減価償却費	10,029	705
受取利息	△575	△21
為替差損益(△は益)	238	359
補助金収入	△55,515	△34,172
株式交付費	—	1,837
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,980	—
特別退職金	—	50,630
その他特別損失	118	—
売上債権の増減額(△は増加)	△651	△4,993
たな卸資産の増減額(△は増加)	△854	3,479
前渡金の増減額(△は増加)	1,600	△5,902
その他の流動資産の増減額(△は増加)	2,200	8,323
仕入債務の増減額(△は減少)	76	△53
未払金の増減額(△は減少)	△19,048	△46,687
前受金の増減額(△は減少)	—	112,500
その他の流動負債の増減額(△は減少)	5,125	△24,527
小計	△641,773	△507,461
利息の受取額	206	18
補助金の受取額	26,153	32,347
法人税等の支払額	△4,210	△4,210
営業活動によるキャッシュ・フロー	△619,622	△479,305
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△549,711	—
有価証券の償還による収入	950,000	—
有形固定資産の取得による支出	△1,568	—
無形固定資産の取得による支出	△3,478	—
敷金の差入による支出	—	△241
敷金の回収による収入	—	501
差入保証金の差入による支出	—	△16,725
長期前払費用の取得による支出	△651	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	394,590	△16,465
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	—	248,162
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	248,162
現金及び現金同等物に係る換算差額	15,945	3,655
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△209,087	△243,953
現金及び現金同等物の期首残高	1,019,223	601,136
現金及び現金同等物の四半期末残高	810,135	357,183

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結累計期間（自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日）

当社グループは、継続的に営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上してきておりますが、前連結会計年度の営業キャッシュ・フローは1,274,380千円のマイナスであり、前連結会計年度末の手元資金（現金及び現金同等物）残高601,136千円は想定される営業キャッシュ・フローのマイナス額に比して著しく少ない金額となっております。当該状況により、前連結会計年度末において、当社グループに継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。当第2四半期連結累計期間におきましてはエマウス社からの「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」（平成23年4月8日締結）に係る契約一時金150万米ドルの受領や、野村証券株式会社宛に発行していた新株予約権の行使（行使額面総額250,000千円分）を通じた資金調達、経営合理化策の実施による全社的な支出計画の見直しなどを行ったものの、当第2四半期連結会計期間末の手元資金（現金及び現金同等物）は357,183千円となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が依然存在しております。当社グループは当該状況の解消を図るべく、引き続き下記の施策に取り組んでおります。

① エマウス社との間で平成23年4月8日に締結した「共同研究開発基本契約」にかかる契約一時金850万米ドルの受領

当社グループは、エマウス社との間で「共同研究開発基本契約」、「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」の2種類の契約書を締結しております。平成24年12月期第1四半期連結会計期間に「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」に係る契約一時金150万米ドルを受領いたしました。また、「共同研究開発基本契約」に係る契約一時金850万米ドルについては、当連結会計年度中に受領をすることを想定しております。

② 平成23年10月4日に発行した第4回乃至第8回新株予約権を通じた資金調達

当社グループは、平成23年10月4日に野村証券株式会社宛に第4回乃至第8回新株予約権を発行いたしました。当該の新株予約権につきましては、平成23年10月4日の発行から当第2四半期連結会計期間末までに350,000千円の行使があり、同額の資金を調達した実績があります。未行使の新株予約権につきましても、可及的速やかに行使の促進を行えるよう準備を進めていきたいと考えております。

③ 全社的な支出計画の見直し

当社グループは、必要資金が確保できるまでの間支出を最小限に抑える経費計画を策定の上、実行しております。さらに平成24年5月18日には経営合理化策の実施について決定を行い、役員報酬の減額、全従業員賞与の支給見送り、希望退職の募集を実施いたしました。

④ 上記①・②・③以外の資金調達交渉

当社グループは、資金調達を目的として複数の相手方と守秘義務契約を締結して交渉を進めておりますが、当第2四半期連結会計期間末までに具体化したものはございませんでした。当社グループは、上述の施策の状況を勘案しつつ、引き続き必要資金の確保を目指した活動を推進していきたいと考えております。

当社グループは、上記の各施策を確実に実行することによって継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況を解消又は改善することも可能であると考えておりますが、いずれも現時点で未確定な部分があり、従って継続企業の前提に関する重要な不確実性は存在していると判断しております。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5)セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント(注)1			調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	再生医療支援 事業	細胞シート再 生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	43,281	—	43,281	—	43,281
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	43,281	—	43,281	—	43,281
セグメント損失(△)	△19,215	△381,103	△400,318	△239,407	△639,725

- (注) 1 再生医療支援事業は既に製品を販売して売上高を計上しておりますが、細胞シート再生医療事業は現在、事業化準備段階にありますので、売上高計上には至っておりません。
- 2 セグメント損失の調整額△239,407千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。
- 3 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント(注)1			調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	再生医療支援 事業	細胞シート再 生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	43,965	—	43,965	—	43,965
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	43,965	—	43,965	—	43,965
セグメント損失(△)	△5,141	△375,819	△380,961	△185,384	△566,345

- (注) 1 再生医療支援事業は既に製品を販売して売上高を計上しておりますが、細胞シート再生医療事業は現在、事業化準備段階にありますので、売上高計上には至っておりません。
- 2 セグメント損失の調整額△185,384千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。
- 3 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は新株予約権の行使により、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ125,434千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が3,323,659千円、資本準備金が3,303,659千円となっております。